

令和3(2021)年度事業計画

公益財団法人 **神奈川芸術文化財団**

第4期指定管理（令和3（2021）年度～令和7（2025）年度） における財団の運営方針

【財団の「理念」と3つの「視点」】

1. 財団の理念

- 私たちは、その想像力と創造性を活用し、芸術文化の価値を高めます。
- 私たちは、芸術文化の力で、地域に生きる人々の心を豊かにし、
幸福な社会の実現に貢献します。

2. 3つの「視点」（財団の理念に次の3つの視点を持って向きあっていきます）。

- 視点1「革新性」：革新的な思考や活動を通じて、新しい価値とさまざまなあり方を認め合う、
豊かで柔軟な社会をめざします。
- 視点2「国際性」：国際的な創造発信を行ってきた「神奈川」という地域の特性を発揮します。
- 視点3「多様性」：基本的人権を尊重し、平和を希求する社会の実現に寄与します。

【財団の4つのミッション】（上記、「理念」のもとに、定めた4つのミッション）

■ミッション「創造に挑む」

- ・芸術文化の価値の追求
- ・多様な価値観や美意識、表現の自由に基づく作品の創造
- ・古典作品の再発見と伝統の継承
- ・劇場法が示す公共劇場のモデルを体現

■ミッション「感動を分かち合う」

- ・自宅でも職場・学校でもない、人びとに開かれた「第3の場所」としての文化施設の実現
- ・豊かな芸術体験の提供、多様な芸術文化の紹介
- ・広域ネットワークの構築
- ・神奈川県内の地域文化の活性化と偏在の解消
- ・文化施設の維持・運営を通し、あらゆる人々の鑑賞や創造活動を支援

■ミッション「つねに考える」

- ・新たな行動に結びつく公正で適正な評価と組織整備
- ・社会と芸術、時代の多面的な検証
- ・芸術文化の公共性や可能性の考察
- ・文化施設の公共性や可能性の考察

■ミッション「未来につなぐ」

- ・芸術文化の担い手の育成
- ・次世代への継承
- ・創造性やコミュニケーション力を養う教育の拠点

【第4期指定管理における重点テーマと主な取組】

1. 「各館のブランディングの強化と3館一体の推進」
各館それぞれの個性・特性をより強く打ち出した企画立案
事業部長（音楽事業部長・演劇事業部長）の設置
総合調整会議を設置（施設運営における水準の平準化と更なる向上）
2. 「あらゆる人々へ開かれた場」
「社会連携ポータル」部門（※）を立ち上げる。
利用者サービスのユニバーサルデザイン化の推進や、障がい者の鑑賞サポートの充実
3. 「地域との連携」の強化～「繋がりの実現」
「社会連携ポータル」部門（※）を立ち上げる。
県内巡回オペラの実施や、バックステージツアーの充実
4. 「今後予測される厳しい財政環境への対応」
専門性の高い職員を3館に共通する部門に配するなどの効率的な人員配置
長期貸館の誘致などによる、利用料収入の確保

※社会連携ポータルとは（新規立ち上げ部門）

これまで、各館でそれぞれに取り組んできた

- ①専門人材育成プログラム
- ②学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）
- ③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ
- ④地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）

について、これまで培った知識や経験といった機能を「社会連携ポータル」部門に集約することで、その機能をより強化し、3館にとっても、また県域の文化施設や他の団体からも、社会と芸術をつなげる窓口＝ポータルとなるよう機能させていく。

また、社会連携ポータル部門では、さまざまな障がいを持つ方々、県内の在住外国人、貧困や社会的養育のもとにある子ども、高齢者（シニア）を重点的に取り組むべき対象とする。

社会連携ポータル部門で実施する事業については、各館の事業内で紹介する。

【第4期指定管理に向けた3館の役割と課題】

神奈川県民ホール

○担うべき役割

- ・ 県内最大規模のキャパシティと多目的ホールの特性や良好な立地条件を生かしながら、主催・共催事業や貸館事業を通じて、県民の方々からの多様なニーズに応え、多彩で良質な芸術鑑賞の機会を提供すること。
- ・ 大ホール、小ホール、ギャラリー、会議室などを最適な環境で提供し、県民の方々の文化芸術活動の活性化に貢献すること。
- ・ 開館後45年を経過した老朽化の進行に適切に対応することで、今後も安全で安心感のある、良好な施設環境を維持し、県民の方々に提供していくこと。

○取組の方向性

- ・ 主催・共催事業のバラエティと質の維持・向上を図りつつ、貸館事業との適切なバランスを確保し、高い利用率を維持する。
- ・ 近隣地域の劇場整備の進捗による利用需要の変化に柔軟に対応していく。
- ・ ロビーや正面広場等を活用した賑わいを創り出す。

KAAT 神奈川芸術劇場

○担うべき役割

- ・ 県民の方々の多様な鑑賞ニーズに応え、かつ高度な舞台創造機能やリソース（人材、ノウハウなど）を生かしたラインナップの実現と、将来の舞台芸術を担う専門人材を育成していくこと。
- ・ 中・長期間公演による大きな収入を財源とした大規模な創作や上演を実現していくこと。
- ・ いわゆる劇場法に則った創造型劇場としての運営や、地域の拠点劇場のモデルを体現する先進事例への取組を続けていくこと。

○取組の方向性

- ・ 収入の維持・向上のために、安定的なロングラン貸館の利用を確保していく。
- ・ 舞台技術に関する創造活動及び安全管理のノウハウを、3館全体への展開し共有する。
- ・ NHK 横浜放送局とも連携し、アトリウムに賑わいを創り出すとともに、劇場施設自体の魅力を発信する取組を開始する。
- ・ 実演家・クリエイター・スタッフ等の創造性を養い、その成果を事業実施や企画立案に反映させる業務環境を作る。

神奈川県立音楽堂

○担うべき役割

- ・ 音楽堂の音楽ホールとしての歴史性を継承する、独自性の高い演奏会を実施すること。
- ・ 優れた音響特性や建物の魅力を生かすジャンルの選定（クラシック音楽の中でも室内楽や室内オペラなど。またモダニズム建築を生かせるパフォーマンスや現代的な演目など）。
- ・ 県民の方々が自ら行う文化活動のために、利用したくなる魅力を持つ「音楽ホール」であり続けること。

○取組の方向性

- ・音楽堂としての個性を大切にしながら音楽事業を展開する。
- ・文化財的価値のある建築であり、同時に現役の音楽ホールとして稼働中の施設を保全していくノウハウを確立する。
- ・これまでと同様の高い利用率を維持しながら、施設の老朽化に適切に対応していく。
- ・主催・共催事業のバラエティと質の維持・向上を図りつつ、貸館事業との適切なバランスを確保する。



神奈川県民ホール



KAAT 神奈川芸術劇場



神奈川県立音楽堂

※次頁以降の凡例（**公1**、**収1**、**収2**、および**法人**）は、公益認定および会計上の分類を示す。

◆公益目的事業

公1 芸術文化事業およびそのための施設運営に関する事業、芸術文化の情報収集提供、調査研究及び人材育成

◆収益事業

収1 駐車場の運営に関する事業

収2 大会、集会、会議等芸術文化以外の施設運営に関する事業

◆法人会計

法人 法人の運営に関すること

令和3(2021)年度における財団の運営方針

神奈川県芸術文化財団は、4つのミッションを柱とした芸術文化事業を展開し、県民の方々へ上質で豊かなプログラムを提供や参加などの活動を通し、社会や地域に創造性や活力が育まれることを目指していく。とくに、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大予防や2021東京オリンピック・パラリンピック等、神奈川県と歩調をあわせながら、事業をおこなっていく。

I. 芸術文化事業

1. 神奈川県民ホール

神奈川県民ホールは、1975年の開館当初から有数の大型文化施設・多目的ホールとして神奈川県の芸術文化振興を担ってきた。第4期指定管理期間でもその実績と使命を継承し、さらに財団の理念とミッションの方向性と軌を一にし、上質でバラエティ豊かな事業を展開していく。一柳慧芸術総監督、及び沼野雄司芸術参与のディレクションのもと、大ホールの2,400席の大空間と舞台機構を生かしたオペラ・バレエ・オーケストラ演奏会、発信力の高い企画による小ホールの活性化、現代美術や幅広い参加型企画によるギャラリーの活用などを通じて、神奈川県民ホールの価値を高める事業を行う。同時に、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に対応するため、観客・出演者等の安全・安心を確保した事業実施を行うとともに、コロナ後の芸術文化のあり方を芸術総監督及び芸術参与とともに考えていくほか、新任のオルガンアドバイザーなどアーティストによる企画への参画（アソシエイト）も進めていく。2025年1月に迎える開館50周年をホール全体で盛り上げていく5カ年計画の最初の年として、本年度は様々な準備作業を開始していく年度として位置づける。

■ ミッション「創造に挑む」 [2事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
11月6日 (土)、22年1 月8日(土)	小ホール	C×C Composer's Journey (作曲家が作 曲家を訪ねる旅) (仮)	小ホールの活性化を念頭に、社会の変化を音楽を通じて考える企画。過去と現代の「作曲家」を引き逢わせ、歴史的遺産を顧みつつ、未来へとつながる芸術表現を模索する。 テーマ作曲家 11月：山本裕之×武満徹(没後25年) 1月：川上統×サン・サーンス(没後100年)
12月～22年1 月	ギャラリ ー	企画展 2021 ミヤケマイ×華雪 ことばのかたち かたちのことば	県民ホールギャラリーの独特な空間を活かし、同時代の美術を紹介する企画展。伝統的な日本人の美意識や感覚を礎として、手工芸から人工知能のようなテクノロジーまで様々な手法を用いて、物事の本質を問う美術家ミヤケマイ

			と、文字の原初の意味や、言葉で表現する人間の根源的欲求に向き合い、一字書として表現する書家・華雪が、それぞれの視点からインスタレーションを展開する。
--	--	--	--

■ ミッション「感動を分かち合う」[6事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
5月30日(日)	大ホール ほか	オープンシアター 2021 音楽でめぐる世界の 旅 ガラコンサート ほか	大ホールでの神奈川フィルによるコンサートを中心に、小ホール、ギャラリーを使用して、音楽・美術ほか様々な企画をホール内各所で同時開催。かながわ国際交流財団等と連携し、障がい者・多言語対応にも取り組む。 (令和2年度中止事業の延期分)
5月26日(水) ～6月6日 (日)	ギャラリ ー	オープンシアター 2021 對木裕里展&ワーク ショップ	
5月30日(日)	小ホール	オープンシアター 2021 音楽のおくりもの オルガンとカウンタ ーテナーのハーモニ ー	
① 7月17日 (土) ② 7月24日 (土)	①海老名 市文化会 館 ②よこす か芸術劇 場	県域巡回企画 みんなでたのしむオ ペラ『ヘンゼルとグ レーテル』	2018年の大ホールでの初演後、県域での実施のために改訂したオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を、地域の文化施設等と連携して実施。県民ホールによる子ども向けオペラ創作+県域巡回プロジェクト。 (①は令和2年度中止事業の延期分)
12月29日 (水)	大ホール	ファンタスティッ ク・ガラコンサート 2021	オペラ、バレエ、オーケストラの名曲、名シーンで構成。祝祭感溢れるステージを展開する年末恒例のガラコンサート。気鋭の指揮者の起用等、企画の刷新を図る。
4月23日 (金)、6月25	小ホール	オルガン・プロムナ ード・コンサート	オルガン音楽の魅力を展開する企画。開館以来続くお昼のコンサートと、クリスマスコンサ

日(金)、8月27日(金)、11月26日(金)、22年1月28日(金)、2月18日(金) ※無料3回、有料3回を予定		オルガン・プロムナード・コンサート・スペシャル	トや実力派奏者によるリサイタルで構成。オルガンアドバイザーは中田恵子(21年4月から)。オーディションによる新しい演奏者の起用なども実施。
10月9日(土) 12月11日(土)		オルガン・リサイタル	
22年3月26日(土)	小ホール	バロック鍵盤音楽の魅力	バロック音楽の第一人者である大塚直哉のプロデュース企画。チェンバロやオルガン、さらにはクラヴィコードなどの珍しい楽器も交えて、バロック鍵盤音楽の魅力を紹介する新企画。

【共催事業】 [6事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
9月4日(土)	大ホール	東京バレエ団「白鳥の湖」	横浜市が主催するダンスの祭典「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」と共同で実施するダンスプログラム。
9月18日(土)	大ホール	Dance Dance Dance @ YOKOHAMA ガラコンサート	
10月3日(日)	大ホール	バレエ企画(ガラコンサート)	
12月25日(土)	大ホール	松山バレエ団「くるみ割り人形」	クリスマスの定番、名作「くるみ割り人形」を共催で上演する。
年4~6回程度	大ホール	神奈川フィルハーモニー管弦楽団演奏会	横浜みなとみらいホールの改修休館に伴い、定期演奏会などを共催で実施。

年間	大ホール・小ホール・ギャラリー	共催公演・展覧会	県民ホールの人的ネットワークや招聘ノウハウを活用して、県民ニーズの高い国内外の優れた実演家や実演団体、美術団体による舞台芸術・美術展示等を招聘し、共催公演を開催する。
----	-----------------	----------	---

■ ミッション「つねに考える」[2事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
11月6日(土)、22年1月8日(土)	小ホール	C×C Composer's Journey (作曲家が作曲家を訪ねる旅) (仮)	(再掲)
① 22年2月～3月 ② 9月25日(土)	小ホール	舞台芸術講座 <社会連携ポータル事業>	舞台芸術への扉を開く講座シリーズ。社会連携ポータル部門とも協働し、鑑賞への配慮などの施策も展開していく。 ① オルガン講座 フーガの技法～謎と魅力～ 講師：荻野由美子 ほか ② 名作オペラ講座 講師：青島広志 (①は令和2年度中止事業の延期分)

■ ミッション「未来につなぐ」[3事業]

開催予定日	会場名	公演名(予定)	内容
8月1日(日)	大ホール	横浜バレエフェスティバル 2021	世界で活躍する日本人ダンサーを招聘し、クラシックからコンテンポラリーまで幅広いプログラムを上演。若手ダンサー向けオーディションでは「神奈川県民ホール賞」を贈賞。共催。 (令和2年度中止事業の延期分)
9月～10月	ギャラリー	神奈川県美術展	昭和40年の創設以来、新人作家の育成と美術文化の向上に努めてきた、国内有数の規模を誇る美術公募展を、県及び財団が参画する実行委員会が主催して開催。県内の中高生を対象とした「中高生特別企画展」も実施。 県民ホールのほか厚木巡回展も実施。共催。

調整中	未定	県民ホール人材育成 事業 <社会連携ポータル事業>	社会連携ポータルと協働し、県内の文化施設職員等を対象にした劇場運営マネジメント講座（インクルーシブ、ホール運営等のテーマ）等を実施する。
-----	----	---------------------------------	--

2. 神奈川県立音楽堂

- ・開館 65 周年、リニューアルオープンを機に開始した音楽堂のプレゼンスを再び高める事業を本格始動。一流室内楽ホールとしてのブランドイメージを構築する、質が高くオリジナリティにあふれたクラシック音楽を主としたレギュラーラインナップを主共催連動して展開すると同時に、若い世代、社会にむけ、新しいジャンルの音楽や他ジャンルの芸術とのコラボレーションも含めた発信を行う。
- ・「音楽堂室内オペラ・プロジェクト」では仏作家パブロフの小説「茶色の朝」のオペラ化作品を日本初演。仏政府の「La Saison de FRANCE au JAPON」に合わせ、作曲家ブルーノ・ジネとアンサンブルKを独自招聘（初来日）。トーク、室内楽演奏等と合わせた立体的公演を開催。
- ・従来のヴィルトゥオーゾ・シリーズに代わる新シリーズ「音楽堂ヘリテージ・コンサート」では人類の資産（ヘリテージ）となっていくような世界的名演奏家の公演を招致。La Saison de FRANCE au JAPON の助成（予定）を得て現代音楽アンサンブルの最高峰の一つアンサンブル・アンテルコンタンポランをサントリーホールと共同招聘。また発信力のある共催事業を積極的に誘致し充実を図る。
- ・従来の「夏オケ」「オープンシアター」を解体再構築。「ホールを開く／次世代を呼び込む」の2つのミッションを満たす新事業「子どもと大人の音楽堂（仮称）」を年2回から3回開催。
- ・従来の表現・思考のスタイルにとらわれない新しい表現者を紹介する「新しい視点」シリーズを始動。令和4年度の本格稼働にむけ、令和3年度は、新感覚の企画提案を公募、ワークインプログレスの発表などを実現する。
- ・社会連携ポータル部門と協働し、「インターン事業」を開始（調整中）。「アウトリーチ」では従来の手法を改め、県内のハブとして各地の教育研究会等を拠点に指導者にむけた講習・研究会開催などに取り組む。
- ・令和2年度4月に正式発足した紅葉ヶ丘公立文化施設5館連携会議（通称「紅葉ヶ丘まいらん」）ほか、地元街づくり会・町おこしNPO、ボランティア等と連携した、建築ツアーやトーク等の関連企画・広報の実施で、文化の杜・紅葉ヶ丘としての地域的ブランド形成を加速する。

■ミッション「創造に挑む」[2事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
音楽堂室内オペラ・プロジェクト			
10月30日 (土)・31日 (日)	音楽堂	ポケット・オペラ 「シャルリー～茶色の朝」日本初演（仏語上演・日本語字幕付）	ファシズムに巻き込まれる一般市民を描きベストセラーになった仏作家フランク・パブロフによる仮想小説「茶色の朝」を元にブルーノ・ジネが作曲した「シャルリー」を日本初演。作曲家とアンサンブルKを独自招聘。第1部にジネ作品中心の室内楽コンサート、第2部にオペラ（40分ほど）、第3部にトー

			ク。事前のアウトリーチワークショップ、合わせて立体的事業構成にする。 仏文化省「La Saison de FRANCE au JAPON」連携企画（申請予定） 出演：アマンディーヌ・トラン（ソプラノ）、アンサンブルK、ブルーノ・ジネ（作曲／クロストーク）
「新しい視点」シリーズ			
日程調整中	音楽堂	公募プログラム	従来の音楽ジャンル・レパートリー・企画・表現手法にとらわれない新しい感覚の表現者を発掘・紹介するシリーズ。 令和4年度本格稼働を前に、令和3年度は「令和4年度に音楽堂で公演できる」ことを前提とした新プロジェクトを公募／審査／ワークインプログレスの発表などを行う。

■ミッション「感動を分かち合う」[2事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
音楽堂ヘリテージ・コンサート ※下記共催と合わせてセット券発売等してシリーズ展開			
8月29日(日)	音楽堂	アンサンブル・アンテルコンタンポラン	現代音楽アンサンブルとして最高峰の一つである室内アンサンブルをサントリーホールと共同招聘。サントリーとは違う音楽堂だけの室内楽コンサート。音楽堂初登場。仏文化省「La Saison de FRANCE au JAPON」助成企画（予定）、フランス大使館・アンスティチュ・フランセ後援（申請予定）
11月27日(土)		ミハイル・プレトニョフ・ピアノ・リサイタル	世界最高峰のロシア人ピアニストによるリサイタル。オール・ショパン・プログラム。

【共催】 [3事業]

優れた共催を積極的に誘致、予算配分。主催と合わせて限られた指定管理料の中で室内楽ホールのラインナップの充実を図る。

開催予定日	会場 公演名(予定)		内容
音楽堂ヘリテージ・コンサート ※上記、主催と合わせてシリーズの一環としてセット券発売、広報などを実施			
9月18日(土)	音楽堂	プラハ・フィルハーモニア	1994年プラハ室内フィルを母体にイルジ・ビエロフラーヴェクが設立した室内オーケストラ [主催：光藍社/神奈川芸術協会]
9月26日(日)		イ・ムジチ合奏団	イタリア、ローマを本拠に1950年代に旗揚げした、世界で最も名高いバロック楽団の一つ。 [主催：神奈川芸術協会]
アフタヌーン・コンサート 3月から翌年1月の年間全10回の平日昼のコンサート。(令和3年3月に篠崎史紀ヴァイオリンリサイタル) [主催：神奈川芸術協会]			
4月9日(金)	音楽堂	荘村清志 (ギター)	日本を代表するギタリストのリサイタル
5月7日(金)		横坂源 (チェロ) & 北村朋幹 (ピアノ)	気鋭の若手チェリストとピアニストのデュオ
6月25日(金)		佐藤美枝子 (ソプラノ)	人気実力を兼ね備えたソプラノのリサイタル
7月16日(金)		横山幸雄 (ピアノ)	確かな存在感を放つピアニストのリサイタル
9月7日(火)		石田泰尚 (ヴァイオリン)	神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスターのリサイタル
10月1日(金)		前橋汀子 (ヴァイオリン) & フレンズ	ベテランヴァイオリニストと共演者の弦楽合奏
11月24日(水)		ジャン・ワン (チェロ)	注目の若手チェリストのリサイタル
12月2日(木)		ダニエル・ハリトーノフ (ピアノ)	ロシア系若手ピアニストのリサイタル
22年 1月19日(水)		小菅優 (ピアノ)	人気実力を兼ね備え若手を代表するピアニストのリサイタル

■ミッション「つねに考える」 [1事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
検討中	音楽堂近隣	街なかトークカフェ	音楽堂ヘリテージ・コンサートや室内オペラ・プロジェクトに先立つ関連企画として、

	市中会場		プログラムの背景や意義、聴きどころなどを講師を中心に共有する。 野毛や黄金町、紅葉ヶ丘地域等音楽堂周辺に協力を仰ぎ、参加者に街の魅力と文化の奥行きを同時に味わってもらおう。
--	------	--	---

■ミッション「未来につなぐ」[5事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
7月31日(土)	音楽堂	子どもと大人の音楽堂 [子ども版(仮称)]	建築見学会、コンサートやワークショップなどを交えて家族で音楽堂を1日楽しむ全館オープン企画。 従来の「夏休みオーケストラ」と「オープンシアター」を解体再構築した企画の一環。 令和3年度からは、よりコンサートの中身を高度で充実したものにし、小学生をメインターゲットとしながら、大人も楽しめる完成度の高い舞台を目指す。 また、「障がい／多文化共生／ジェンダー」といった社会包摂的テーマをかならず包含し、事前の働きかけや参加型ワークショップ、コンサートの開催方法等も、多様性を実現したものにして、毎年シリーズ化していく。
22年 3月19日(土)・ 20日(日) ※プレプログラムとして21年夏頃1回予定		子どもと大人の音楽堂 [大人版(仮称)]	20代から40代の世代をメインターゲットに、音楽堂のステージ、客席、ホワイエを使って、インスタレーション、パフォーマンス、DJ等の総合的なエンタテイメントデイを創出。プログラムコーディネーターにノイズ中村、アートディレクションに小金沢健人を起用。「音楽堂を森に戻す」をテーマに客席を使った人工苔によるインスタレーションを行うなど、新感覚で音楽堂の存在感をとらえ直し、新しい音楽堂ファン層を開拓する。
12月12日(日)	音楽堂	第55回音楽堂クリスマス音楽会 「ヘンデル：メサイア全曲演奏会」	高校生と県民の合唱、神奈川フィルハーモニー管弦楽団とプロ歌手たちが共演して大曲「ヘンデル：メサイア」全曲を演奏するシリーズ55回目。小泉ひろし指揮の最終回。 (令和2年度の中止事業の延期分)

調整中（5～6回）	県内各地	子どものためのアウトリーチ事業 <社会連携ポータル>	社会連携ポータルと協働し、従来のアウトリーチ事業を一新。個別に学校を訪問するのではなく、各地の教育委員会、教育研究会等を拠点とし、現場で音楽教育にあたる先生方と芸術家の協働によるヒアリング、研究会、研修会等を開催。毎年県内を網羅し、5年間を通して年々完成度をあげていく。
調整中（3回程度）	音楽堂	子どものための公開リハーサル等	神奈川フィルハーモニー管弦楽団の音楽堂定期公演等を共催によって誘致し、その関連企画として公開リハーサルを音楽堂主催で実施し、子ども青少年への音楽体験の提供を行う。
8月～10月	音楽堂	音楽堂人材育成事業 <社会連携ポータル・新規（調整中）>	社会連携ポータルと協働し、これからの劇場運営・公演制作を担っていくスタッフの養成を音楽堂の現場でも目指して、現場実習を中心に研修を行う。※室内オペラ「シャルリー」の広報制作を研修現場題材として予定

3. KAAAT 神奈川芸術劇場

令和3年度より新たな芸術監督として迎える劇作家・演出家・俳優の長塚圭史氏のもと、年間を通じたプログラムや、芸術監督演出作品・企画作品を通じて、高い芸術性を担保し、リソース（専門人材、劇場設備・機構、人的ネットワーク、ファンドレイズ等）を積極的に育成・展開・活用する企画を立て、安定した事業運営を目指す。

劇場・財団のミッションを踏まえた多様なプログラムを提供する枠組みとして、シーズン制を導入する。4月～8月を「プレシーズン」、9月～3月を「メインシーズン」として2つに分け、年間を通じたテーマを設定する。

4月～8月の「プレシーズン」は、開かれた劇場として県民の方々とはつながることをめざし、「舞台に触れることの少ない方々に、観客となる鮮やかな体験を提供する」ことを主眼とするプログラムを企画していく。

9月～3月の「メインシーズン」には、芸術監督演出・企画作品をはじめ、芸術性の高い創造作品を中心にプログラムし、劇場のブランディングを強化していく時期とする。

「メインシーズン」には、毎年度テーマを掲げ、時代や劇場の動性を表現し、そのテーマから想起される作品をラインアップする。令和3年度のテーマは、『冒』。

『冒』は、「冒険」であり「冒涇」。未知なる世界へ足を踏み入れる勇気と、既成の概念を打ち壊す芸術の原点。シーズンを通じて、様々な『冒』によって、演劇の多様性を県民に提供していく。

プレシーズン-----

4月	中スタジオ	「ポルノグラフィター」桐山知也演出
5-6月	アトリウム	「王将」-三部作- 長塚圭史構成台本・演出
6月	大スタジオ	「未練の幽霊と怪物-挫波、敦賀」岡田利規作・演出
6月	中スタジオ	「虹む街」タニノクロウ作・演出
6月	ホール	KAAAT ダンスシリーズ イスラエル・ガルバン「春の祭典」
7月	大スタジオ	KAAAT キッズ・プログラム 2021 「ククノチ ワクワク マナツノ ボウケン」北村明子振付・演出

メインシーズン-----

9月	ホール	「近松心中物語」長塚圭史演出
8-9月	大スタジオ	「湊横濱荒狗挽歌」(みなとよこはまあらぶるいぬのさけび) 野木萌葱作・シライケイタ演出
9-10月	中スタジオ	KAAAT Exhibition2021「志村信裕展 游動」
9月	大スタジオ	KAAAT ダンスシリーズ DDD「エリア 50代」
10月	ホール	KAAAT ダンスシリーズ DDD「小林十市+Noism」
11月	ホール	「アルトゥロ・ウイの興隆」白井晃演出
12月	中スタジオ	KAAAT ダンスシリーズ 「Le Tambour de soie 綾の鼓」 伊藤郁女、笈田ヨシ振付・演出
12月	複数施設	YPAM2021-横浜国際舞台芸術ミーティング
2月	大スタジオ	「ラビット・ホール」小山ゆうな演出
2-3月	中スタジオ/県内	県内巡演企画「冒険者たち」長塚圭史作・演出

■ミッション「創造に挑む」[9事業]

開催予定日	会場	公演名(予定)	内容
4月16日 (金)～18日 (日)	中スタジオ	桐山知也演出 「ポルノグラフィター」	(プレシーズン) ロンドンオリンピック開催が決まった翌日にロンドンで起きた地下鉄・バス連続爆破テロ事件に想を得たサイモン・ステーブンスの意欲作を、オリンピックイヤーとなる2021年に、KAATプロデュース公演初登場となる桐山知也演出により、リーディング公演として上演する。 (令和2年度の中止事業の延期分)
6月	大スタジオ	岡田利規作・演出 「未練の幽霊と怪物 —挫波、敦賀」	(プレシーズン) 現代演劇の旗手として、国際的に活躍するチェルフィッチュ主宰・劇作家・演出家の岡田利規とともに、能のスタイルを用いた岡田版現代能を上演する。 (令和2年度の中止事業の延期分)
9月	ホール	長塚圭史演出 「近松心中物語」	(メインシーズン) 芸術監督就任後、シーズン第一作。神奈川出身の秋元松代の代表作を上演する。時代を超えて、庶民の生きる道の際どさ切なさが溢れる傑作に、真っ向勝負で挑む。忠兵衛、与兵衛どちらのカップルも身分や立場を大胆に「冒して」いる。またこの金字塔に立ち向かうという「冒険」も兼ねていて、シーズンテーマ「冒」に相応しい作品。名セリフの際立つ、現代に深く響く『近松心中物語』を編み出し、新しいKAATの船出とする。
8～9月	大スタジオ	野木萌葱作 シライケイタ演出 「湊横濱荒狗挽歌」 (みなとよこはまあらぶるいぬのさけび)	(メインシーズン) 長塚芸術監督が指定管理期間を通じて取り組む書き下ろし新作戯曲上演の第一弾として、新進気鋭の劇作家・野木萌葱の書き下ろし新作を上演する。黙阿弥の名作歌舞伎「三人吉三」を元に、スリリングな会話劇の旗手である野木が、現代の横浜を舞台とした仁義ものに置き換える。演出は昨今活躍目覚ましいシライケイタが担当する。

9月～10月	中スタジオ	KAAT Exhibition2021 「志村信裕展 游動」	(メインシーズン) 劇場の独特な空間で展開する現代美術企画展。可視化され難い社会問題や歴史に焦点をあてる様々なプロジェクトを手掛ける新進気鋭の映像作家・志村信裕が、「水・光・月」をテーマに空間インスタレーションを展開する。また、劇場が仕掛ける展覧会の意味が際立つように、パフォーマンスや音楽など他分野とのコラボレーションイベントも合わせて企画する。
9月23日 (木)～26日 (日)	大スタジオ	KAAT ダンスシリーズ DDD「エリア50代」	(メインシーズン) 横浜市が主催するダンスの祭典「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」と共同で実施するダンスプログラム。50代のダンサーが身体と向き合い作品を創作し、上演する。DDD ディレクターのダンサー・振付家の小林十市、コンドルズ主宰の近藤良平が、公演毎にゲストダンサー1名を迎え、ダンサー3名よるソロダンスのトリプル・ビル公演。
10月16日 (土)・17日 (日)	ホール	KAAT ダンスシリーズ DDD「小林十市+ Noism」	(メインシーズン) 横浜市が主催するダンスの祭典「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」と共同で実施するダンスプログラム。DDD ディレクターのダンサー・振付家の小林十市が Noism の金森穰、井関佐和子とともに作品を制作。その新作の世界初演に加え、Noism の作品とのダブルビル公演。
12月	大スタジオ	KAAT ダンスシリーズ 伊藤郁女、笈田ヨシ 振付・演出 「Le Tambour de soie 綾の鼓」	(メインシーズン) フランスに本拠を置く国際的振付家舞踊家伊藤郁女と名優笈田ヨシのコラボレーションによる、三島由紀夫「近代能楽集 綾の鼓」を元としたダンス作品。昨年フランス アミアンで制作され、アビニョンにて初演された。ダンスの身体と演劇の身体の衝突と融合による作品として、静岡県舞台芸術センター (SPAC) と協働し招聘する。
22年 2月～3月	大スタジオ	篠崎絵里子上演台本 小山ゆうな演出 「ラビット・ホール」	(メインシーズン) アメリカの劇作家デヴィッド・リンゼイ・アベアーのピューリッツァー賞受賞作品の日本初演。一人息子を失った夫婦を描いた命の物語。一言一言のセリフにドラマが詰まった名

			戯曲を、気鋭の演出家・小山ゆうなの演出、篠崎絵里子脚本で上演する。翻訳戯曲を豊かな日本語の戯曲として上演するためのプロセスを再検証する試みでもある。
--	--	--	--

■ミッション「感動を分かち合う」 [6事業]

開催予定日	会場	公演名	内容
5月～6月	アトリウム	新ロイヤル大衆舎×KAAT 長塚圭史構成台本・演出 「王将」-三部作-	(プレシーズン) 長塚芸術監督の就任第一作。アトリウムに特設会場を設営し、建物の奥にあるホール・スタジオから街の人々に見えるところに飛び出して、劇場の存在を知らしめ、街にひらく劇場をアピールする。上演期間中、NHK 横浜放送局とも協力し、屋台やイベントなどを多く企画する。北条秀司作、長塚圭史演出、新ロイヤル大衆舎による上演。
6月	中スタジオ	タニノクロウ作・演出 「虹む街」	(プレシーズン) 県民から出演者を募集・スカウトして上演する市民参加劇を企画し、演劇に触れたことのない観客を取り込んでいくことを目指す。タニノクロウ氏がこれまで大阪や富山で創作してきた市民劇の方法や発想を発展させながら、演劇に触れたことのない観客を大いに取り込んでいきたい。
7月	大スタジオ	KAAT キッズ・プログラム 2021 北村明子振付・演出 「ククノチ ワクワク マナツノ ボウケン」	(プレシーズン) KAAT キッズ・プログラムのオリジナル作品の新作公演。ダンサー・振付家として国内外で活躍する北村明子が、自然や生物を作品のモチーフとする現代美術作家・大小島真木とともに、「夏休み」をテーマにダンス作品を創作する。言葉ではなく身体を通じて、生死や自然について新たな発見・体験ができる作品づくりを目指す。
22年 2月～3月	中スタジオ + 県内他施設	長塚圭史上演台本・演出 大澤遊共同演出 KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト第一弾 「冒険者たち ～	(メインシーズン) 誰もが知る奇譚「西遊記」をベースに、神奈川県各地域の伝説や歴史をリサーチし、発掘して物語を立ち上げ創作し、長塚芸術監督自らが神奈川県内を巡演するシーズン後半の目玉企画。 社会連携ポータルと連携し、演劇の魅力を県内

		JOURNEY TO THE WEST〜」	の隅々に届けるために、指定管理期間に継続して取り組む。
通年	アトリウム ほか	KAAT フレンドシップ プログラム（仮称） ＜社会連携ポータル事業・新規（調整中）＞	芸術文化鑑賞普及事業として実施してきた「オープンシアター」と「SHIRAI' s CAFE」の2事業を発展的に再構築。社会連携ポータルと協働し、年間を通じて、街の一部である劇場、街に飛び出す劇場、またあらゆる人々に開かれた劇場を目指し、演劇・音楽・ダンス・現代美術・トークイベントなど多様な催しを、アトリウムを活用し開催する。また、劇場を身近に感じていただく、劇場の魅力を知っていただくために、日常的にバックステージツアーを開催する。
通年	複数施設	提携事業	KAAT の劇場イメージを向上させる上質な演目や、集客力で地域の賑わいを創り出す演目を、提携公演として誘致し、主催公演とあわせて KAAT 全体の公演ラインナップを充実させる。 主な演目は以下の通り。 「仕立て屋のサーカス」：4月 大スタジオ 錬肉工房：6月 中スタジオ とりふね舞踊舎：7月 大スタジオ 劇団た組：10～11月 大スタジオ OrganWorks：12月 大スタジオ 地点：22年1月 大スタジオ Baobab：1月 大スタジオ Co. 山田うん：1月 大スタジオ BATIK：3月 大スタジオ

■ミッション「つねに考える」[3事業]

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
6月18日(金) ～20日(日)	ホール	KAAT ダンスシリーズ イスラエル・ガルバン「春の祭典」	(プレシーズン) 異端フラメンコダンサー、イスラエル・ガルバンと2台のピアノによる、革新的な「春の祭典」。見たことのない美意識に触れる機会をつくる。共催。

12月	複数施設	YPAM2021-横浜国際 舞台芸術ミーティ ング	横浜市内の各文化施設を利用し、舞台芸術の実験精神と都市のクリエイティビティを融合させる。また、質の高いコンテンポラリー・パフォーマンス・アーツの情報交換やプレゼンテーション等を行い、横浜に根付いた舞台芸術の国際的交流と創造的深化を目指す。
通年	複数施設	「カイハツ」	必ずしも上演を目的とせずに様々な創作の可能性を探る場を、演出家・振付家・俳優・ダンサーたちに提供する。数多くのアーティストが出入りし、劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指す。 また、国内外の戯曲の発掘、情報収集も継続的に行い、今後の企画立案に繋げていく作品のディベロップメント事業としても位置づける。

■ミッション「未来につなぐ」[4事業]

開催予定日	会場	企画名(予定)	内容
11月	ホール	白井晃演出 「アルトゥロ・ウイの興隆」	(メインシーズン) 過去の作品を劇場の財産として、より多くの県民に鑑賞機会を提供出来るよう再演していく。第一弾として、ヒトラーが独裁者として上り詰めていく過程をシカゴのギャングの世界に置き換えて描いたブレヒトの大作を、ショースタイルの音楽劇として白井晃が再構築して2020年に初演した傑作をブラッシュアップし再演する。
通年	複数施設	「カイハツ」	(再掲)
日程調整中		教育普及事業 <社会連携ポータル事業>	社会連携ポータルと協働の元、舞台芸術講座、ワークショップ、バックステージツアー等を行い、広い観点から劇場、演劇、舞踊等の舞台芸術への理解と共感を深める。
日程調整中		人材育成事業 <社会連携ポータル事業>	社会連携ポータルと協働し、以下の事業をおこなう。 <u>劇場インターンシップ</u> これからの劇場運営・舞台技術を担っていくスタッフの養成を目指して、OJT(オン・ザ・ジョブトレーニング)を中心に研修を行う。

		<p><u>舞台技術講座</u> 最新の機材や考え方、また舞台技術者が知っておくべき舞台芸術に関する一般的な内容の講義や実習等を行い、舞台技術者としての研修・交流を行う。</p> <p><u>大学連携事業「芝居の大学」</u> 横浜国立大学と連携し、大学のカリキュラムの中で、演劇を考察するプログラムを実施。一般の受講者にも参加をよびかける。</p> <p><u>視覚言語がつくる演劇のことば</u> 演劇に手話や字幕などのアクセシビリティを後からつけるのではなく、あらかじめクリエイティブな要素の一部として組み込みながら、実験的で質の高い演劇をつくることを目指す。</p> <p><u>劇場間人材交流</u> 感染症の状況を注視しつつ、広く時機を探し、研修の受け入れ、また派遣に取り組む。</p>
--	--	---

II. 施設運営・利用者サービス

「安全・快適な利用環境を守るーその先の安心へ」を施設運営・利用者サービスにおける重要な課題とし、「あらゆる人々に開かれた場」であるという視点でハード面・ソフト面を改善していくことによって来館者も利用者も安心して過ごすことができる施設をつくる。

3館は共通して、各館の運営に関する専門的知識の共有や、「社会連携ポータル」機能との連携により、高いレベルを標準化していく。

新型コロナウイルス感染症拡大防止については、引き続きガイドラインに沿って対策を進めていく。

また、管理運営にあたっては、「After/With コロナ時代」に対応する新たな管理運営に取り組み、県の公立文化施設として相応しい良好な空調運転管理、保守管理の実施、そして清潔で快適な環境を常に提供することで、県民が安心して訪れることのできる施設環境を創出する。利用者サービスの向上に持続的に取り組み、高いホール利用率を回復させる。

<施設維持管理における共通目標>

3館では、4つのミッションに基づき、施設維持管理においても、以下に取り組む。

創造に挑む

県民の多くの方々が、芸術文化に触れ、また、芸術活動を行うことができるよう、鑑賞・創造環境の整備やその活動を支援する。

感動を分かち合う

自宅でも職場・学校でもない場所であり、つねに身近にある「あらゆる人々に開かれた場所」としての文化施設の機能を創る。

つねに考える

アンケートや利用者の方々からのご意見、内部及び外部での評価・検証を、会議等で議論、共有を重ね、文化施設の果たす役割、効果などをつねに考察し、次のアクションへ生かす。

県立の文化施設としてインクルーシブ社会の実現やSDGs等の社会課題の認識や課題の解決にも取り組む。

未来につなぐ

地域の拠点の文化施設として、「社会連携ポータル」機能と連携し、インターンシップ受入れ、県内文化施設職員向け研修会の実施などにより社会と芸術文化をつなぐ担い手を育成する。

適切な施設保全、高い利用率の保持、多様なラインアップの提供によって、世代を越えて、県民の方々に長く愛される施設づくりに取り組む。

1. 神奈川県民ホール

ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 図1

- ・首都圏有数の客席数を持つ大型文化施設として、どのような催しにも対応できるよう、また、年齢や障がいなどにかかわらず、あらゆる人が芸術文化に親しめ、県民自らが様々な芸術文化活動に携われる、魅力的で快適な場となるような、安定したサービスと技術的サポートを提供する。
- ・大ホールではポップス、演歌、乳幼児向け公演、小ホール・ギャラリーでは県民の文化活動の発表の場として各種コンクール、ピアノ・合唱発表会、絵画・写真展覧会などジャンルを限定せず幅広く利用に供する。また、吹奏楽コンクール等県域の子ども・青少年の文化活動発表の場として提供する。
- ・大ホールの規模の大きさと舞台機構を国内外の利用者・関係芸術団体に周知し、県民の鑑賞ニーズの高い公演、海外の一流オペラやバレエ公演、全国規模の学術会議等の誘致に努め、特例利用制度等を活用して確実に利用を確保する。
- ・自主事業と貸館事業の適切なバランスを図り、新型コロナウイルス感染拡大前の稼働率に戻し、利用料収入の確保を目指す。
- ・神奈川県内文化施設の「施設利用担当者」を対象とする、専門性の高い人材育成講座を実施し、県内文化施設全体のレベルアップ、県民利用のサービス向上に寄与する。
- ・周辺施設の需要の変化に対応しながら、日々、多くの県民の方々が集う活気あるホール環境を維持する。
- ・窓口案内、会場案内、舞台技術、警備、中央監視、清掃等の各委託会社及びレストラン・喫茶と協力し、快適な劇場空間の維持と利用者サービスの向上に努める。
- ・県と連携をとりながら、老朽化した施設の適切な維持管理を行うとともに、バリアフリー化、ユニバーサルデザインの採用等、県民サービスの観点から時代に即した施設整備を行っていく。
- ・大規模修繕等の長期計画についても、県に積極的に働きかける。
- ・抽選会後の空き日は地元イベーター等に対し、積極的に営業活動を行い利用の促進を図る。
- ・法令を遵守し、すべての利用者に公平公正かつ安全第一かつ安心感を提供できる運営を行う。

イ 神奈川県民ホールの施設を活用する事業 図2

公益目的（音楽・舞踊公演、展覧会等）が見込まれない場合は、学術会議、講演会、研修会、式典などのための利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当する。

ウ 駐車場の運営等 図1

- ・駐車場の運営を的確に実施し、収入確保をめざす。

2. KAAT 神奈川芸術劇場

ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 図1

- ・開館から10年がたち、ミュージカルのロングラン公演の会場として、多彩な演劇公演の上演される劇場として横浜に定着してきた。認知度の向上とともに比較的長期の利用が安定的にはいるようになっており、引き続き専門劇場として運営・技術サービスを安定的に提供していく。
- ・会場案内、舞台技術、警備等の各委託会社による施設を熟知したサービスをベースに、館全体で、快適な劇場空間の維持と利用者サービスの向上に努める。
- ・電子部品等の更新時期を迎えていることから、県と連携をとりながら適切な更新工事等を実施していく。
- ・外国人・障がい者等の来館者対応として、鑑賞サポートの充実、ホームページの改修、職員研修などを順次計画的にハードとソフトの両面から進めていく。

イ KAAT 神奈川芸術劇場の施設を活用する事業 図2

- ・公益目的の利用（演劇・舞踊公演等）が見込まれない場合は、学術会議あるいは講演会などのための利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当するが、現状では稼働率も高く、ほとんど利用実績はない。

ウ 駐車場の運営等 図1

- ・駐車場の運営を的確に実施し、収入確保をめざす。

3. 神奈川県立音楽堂

ア 芸術文化に関する施設管理運営事業 公1

- ・管理運営において、県立図書館とともに建築物として神奈川県に登録有形文化財への登録が想定されていることと、昨年度から開始した前川建築見学ツアーが、改修により建物の価値が向上したことにより人気度を上げていること等から、建築としての価値とコンサートホール（音楽）としての価値をさらに向上させていくことを基本方針とし、安全安心な施設維持管理、魅力ある事業実施や人材育成に取り組む。
- ・利用対応については、利用者が安心感を持って利用できるよう親切でいねいな対応、休館日が祝日に当たる場合の臨時開館や、早朝利用等の弾力的な対応を行い、利用者・来館者の満足度向上を図る。
- ・建物および設備維持管理については、神奈川県に登録有形文化財への登録が想定されていることから、事故や危険の未然防止を徹底させ、維持コストの縮減とともに経年劣化に対する県有財産の価値保全のための適切な管理に取り組む。引き続き各設備機器の中長期営繕計画のもと長寿命化に取り組む。
- ・建築見学ツアーについては、引き続きボランティアグループ **bridge** と連携し定期的を実施する。本年度は障がい者を対象とした見学ツアーや近隣施設と連携した見学ツアーに新たに組み込む。
- ・県立図書館の改修工事が予定されており、電気の供給等をはじめ様々な面での影響が予想されることから適切な対応に取り組む。
- ・昨年度実施予定であった第2期寄附キャンペーンが延期となったことから、再度クラウドファンディングに取り組み、音楽堂のネームバリューの向上に努める。
- ・紅葉ヶ丘地区の活性化のため、県立図書館、青少年センター、横浜能楽堂、横浜市民ギャラリーとの5館連携事業「まいらん」を促進させる。

イ 神奈川県立音楽堂の施設を活用する事業 収2

- ・公益目的（音楽公演等）が見込まれない場合は、講演会や研修会などのための利用に提供し、その収益を公益目的事業の財源に充当する。

III. 本部事業、その他事業

1. 社会連携ポータル部門 [☑1](#)

ア 社会連携ポータル事業

これまで、各館で取り組んできた、①専門人材育成プログラム、②学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）、③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ、④地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）について、これまで培ってきた知識や経験を社会連携ポータル部門に集約し、強化していく。

イ 共生共創事業（県からの受託事業）

県の重点施策である「共生社会の実現」「未病」などの取組とマグネット・カルチャー（マグカル）をクロスさせた舞台芸術関連の事業。

県域の文化振興に関するネットワークの形成についても、文化庁補助金を得ながら、本事業に関連して進めていく。（4年目。平成30(2018)年度から開始の事業）

- ・シニア劇団3箇所 通年実施（横須賀、綾瀬、小田原）
- ・シニアダンスワークショップ1箇所 通年実施（横浜を主体に県内各地）
- ・インクルーシブ事業（3件程度）
- ・その他広報業務等

※神奈川県の実業説明文

事業理念

神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても、「ともに生きる ともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が、舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。

2. 芸術文化に関する情報の収集提供 [☑1](#)

- ・「神奈川アーツプレス」をリニューアルし、県内の公演・催物等の事前情報を収集提供する現行の内容から、県内で実施された芸術文化や文化施設の取組等に関する情報を専門的視点でレビューしていく情報誌へ一新する。（年2回発行予定）
- ・公演・催物だけでなく、人材育成・インクルーシブ関連の取組の特集など様々な観点から、紙の冊子ならではの読み応えのある特集・レポート記事を掲載していく。

3. かながわメンバーズの運営 公1

- ・会費無料のインターネット会員制度「かながわメンバーズ（愛称 KAme：カメ）」を運営し、メールマガジンの発行による公演案内やチケット発売情報の提供、先行予約の実施などのサービスを行う。



「かながわメンバーズ」

- ・インターネットから 24 時間購入可能なチケット予約システムや、コンビニエンスストアでのチケット発券等のサービスを継続するほか、新機能を検証し積極的に導入する等、利用者の一層の利便性向上に努める。

4. チケットかながわの運営及び団体販売等の促進 公1

- ・主催事業の票券管理やチケット販売、また共催・提携・貸館公演のチケット販売受託を行うため、チケットセンター「チケットかながわ」を運営する。近年大半のチケット購入者が利用するインターネット予約システムが安定稼働するよう整備維持するほか、特に高齢者へのチケット販売時は電話・窓口で丁寧に対人対応をおこなうなど、利用者の立場に寄り添ったサービスを提供し、利用者満足度を向上させる。
- ・また、昨今のキャッシュレス決済手段の多様化や電子チケット対応、不正転売禁止法対応等、技術的・制度的な革新にも対応していき、利用者満足度の高いチケットセンターを運営していく。
- ・チケットの団体販売については、各種団体等への斡旋販売、福利厚生会員組織向けのインターネットを活用した販売を継続する。

5. 資金調達活動 公1

ア 文化庁等からの補助金・助成金の確保

文化事業、広報活動及び人材育成等の充実、他劇場等との連携の拡大に取り組むため、文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」等の補助金、一般財団法人地域創造、芸術文化振興基金及び民間の助成財団等からの助成金の確保に積極的に努める。また、独立行政法人日本芸術文化振興会の調査・ヒアリングに対応するなど、文化芸術分野への助成金の拡充施策に協力していく。

イ 賛助会員制度（寄付金）の運営

- ・現会員に継続いただくとともに、新規の会員獲得のため、法人、個人への働きかけを積極的に行う。
- ・来館者、一般の方々の賛助会員制度への理解を深めるため、館内デジタルサイネージの活用やWebサイトの充実等の方策を実施する。
- ・インターネットを活用した寄付（クラウドファンディング）の受け入れをさらに推進し、オンラインでの簡素な入会・更新手続きを促進し、小口寄付を強化し、寄付者数の拡大を図る。将来的には、ペーパーレスで効率的な資金調達活動を目指していく。

ウ その他企業協賛金の獲得

賛助会員制度だけでなく、特定の公演や事業に対して支援をいただく個別協賛金や、法人としての定期的なチケット購入、広報媒体への広告出稿、公演に合わせた飲料等の現物提供など、幅広い支援をいただけるよう、法人、個人に働きかける。



インターネットを活用した寄付金募集

6. 管理組合の運營業務受託 取2

- ・KAAT 神奈川芸術劇場及び日本放送協会横浜放送会館合同施設全体の防災管理業務、並びに共用部の敷地・建物の清掃、保全、保守、修繕、植栽、塵芥処理及び消毒業務等の施設維持管理業務を受託する。
- ・合同施設アトリウム・レストラン・カフェの利用調整業務を行う。

7. 法人本部の運営

ア 法人本部の運営 法人

理事会・評議員会等の運営、職員の資質向上のための研修の実施、事業評価の実施、その他公益法人の運営に関すること（総務、人事、会計、県との調整等）を行う。

今年度からの第4期指定管理業務をより効果的、効率的に進めていく。

イ 寄付講座の実施 公1

財団本部の事業として、2021年度昭和音楽大学の授業「芸術文化と社会／芸術運営論」に出講（寄付講座として受託）し、当財団職員が劇場運営や事業等について分担して講義を行う。（予定／計2コマ）